

令和5年 3月 27日

国立がん研究センター理事長 殿
国立がん研究センター中央病院長 殿

国立がん研究センター中央病院
医療安全外部監査委員会
委員長 山本 修一

令和4年度第2回医療安全外部監査委員会 監査結果報告書

1. 日 時 : 令和5年2月7日(水) 13時00分～15時10分 第1会議室

2. 監査委員

独立行政法人地域医療機能推進機構	山本 修一	理事長
順天堂大学医学部附属順天堂医院医療安全推進部	川崎 志保理	部長補佐
さわやか法律事務所	田島 優子	弁護士(WEB参加)
NPO法人パンキャンジャパン	眞島 喜幸	理事長(WEB参加)
国立がん研究センター	荒井 保明	客員研究員

3. 令和4年度第1回医療安全外部監査委員会監査結果に対する当院の対応

(令和4年3月31日医政発0331第35号に基づく公表)

- 1) 医療者が患者誤認防止策を適切に実施しているかについて、患者満足度調査などを活用して調査することを検討していただきたい。また、患者誤認防止策の中に、患者を巻き込んだ手順を加えるなど、患者を巻き込んだ医療安全体制を構築していただきたい。

<対応>

10月下旬に実施された患者満足度調査において、医療者の患者誤認防止策の実施に対する質問項目を設定した。引き続き、患者参画の医療安全を推進していく。(委員会了承)

- 2) 事故調査委員会の開催事案として、特定機能病院における病院長のガバナンスを踏まえて、「病院長が必要と認める場合」といった事案を加えることを検討していただきたい。

<対応>

事故調査委員会開催の是非を審議する医療事故等防止対策委員会の委員長は病院長である。ここでは多数決型の決定を採用しておらず、決定権は実質的に病院長にある。よって、内規へ「病院長が必要と判断するもの」の明記は行わないこととした。(委員会了承)

- 3) 感染制御室が行っている環境ラウンドについて、職員への理解度確認の正答率についても、今後ご報告いただきたい。

<対応>

職員への理解度確認は定期的実施している。理解度確認の正答率について資料で提示した。(委員会了承)

4. 監査結果

- 1) 患者誤認防止策強化のため、特定の部門や場面だけでなく、病院全体で氏名に加えて生年月日などで確認するという二要素確認の実施を検討していただきたい。
- 2) 外来患者の転倒防止策立案に活かすため、発生件数のモニタリングの他に、付き添いの有無など、事例場面についてもモニタリングすることをご検討いただきたい。
- 3) 改訂中の高難度新規医療技術等導入フローチャートに、緊急対応についても明記していただきたい。
- 4) 年間目標の取り組みについては、検証・効果判定を兼ねた実施時期を検討した上で、年間計画を立案していただきたい。
- 5) 適応外使用については、高難度新規医療技術等と医薬品適応外使用の住み分けを整理し、フローチャートに明記しておく等、検討していただきたい。

以 上